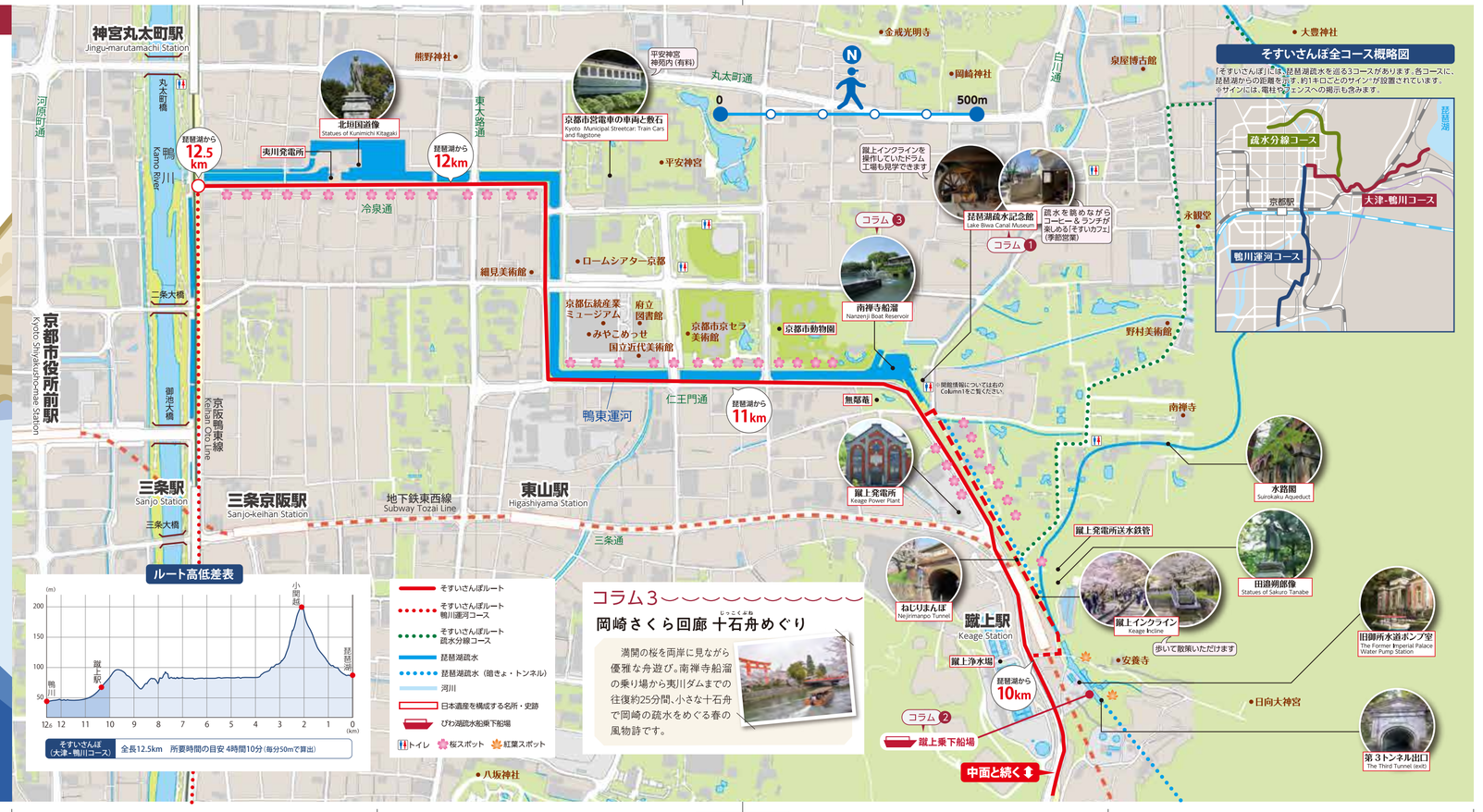
そすいさんぽ
CANAL WALK

大津ー鴨川コース
Otsu - Kamogawa Course

琵琶湖疏水 LAKE BIWA CANAL

日本遺産 JAPAN HERITAGE



ルート高低差表

- そすいさんぽルート
- そすいさんぽルート 鴨川運河コース
- そすいさんぽルート 疏水分線コース
- 琵琶湖疏水
- 琵琶湖疏水（隧道＋トンネル）
- 河川
- 日本遺産を構成する名所・史跡
- びわ湖疏水船乗下船場
- トイレ　桜スポット　紅葉スポット

コラム3
岡崎さくら回廊 十石舟（じっこくぶね）めぐり

満開の桜を両岸に見ながら優雅な舟遊び。南禅寺船溜の乗り場から夷川ダムまでの往復約25分間、小さな十石舟で岡崎の疏水をめぐる春の風物詩です。

コラム1
琵琶湖疏水記念館

明治時代にタイムスリップ!?

疏水（そすい）とは、人工的につくられた水路のことで、琵琶湖疏水は琵琶湖の水を京都に運んでいます。琵琶湖疏水記念館では、京都近代化の舞台裏を分かりやすくご紹介。蹴上インクライン上を舟を載せた台車が行き来していた様子が分かるミニチュア模型のほか、蹴上・岡崎エリアのジオラマやアーカイブ映像の視聴コーナーなどもあります。屋外テラスでは、噴水越しに疏水を望む素晴らしい景色も楽しめます。

開館時間：午前9時～午後5時　※入館時間は午後4時30分まで　※ただし、トラムに乗れるのは午後4時まで。
入 館 料：無料
休 館 日：毎週月曜日／年末年始（12月29日～1月3日）
※月曜日が祝日・休日の場合は翌平日
交　　通：地下鉄東西線「蹴上」下車徒歩7分
市バス5系統「岡崎法勝寺町」下車徒歩4分

https://biwakososui-museum.city.kyoto.lg.jp

コラム2
びわ湖疏水船

観光船で琵琶湖疏水を堪能

平成30年、約70年ぶりに復活した疏水を走る観光船、「びわ湖疏水船」は、春と秋の観光シーズンに水路上から綺麗な桜と紅葉を見ることができるとあって大人気。

自然風景だけでなく、明治期の偉人が揮毫したトンネル出入口の「扁額」や赤レンガ造りの国登録有形文化財「旧御所水道ポンプ室」などを間近で見ることができます。とりわけ全長2,436mに及ぶ第1トンネルでは、ほとんどの作業を人力で行った先人たちの苦労を肌で感じることができます。

専門ガイドによる案内を聞きながら、明治に想いを馳せる旅に出かけましょう！

運航時期：春（3月～6月）／秋（10月～11月）
乗下船場：大津・山科・蹴上（３箇所）
運航ルート：下り（大津・山科→蹴上）／上り（蹴上→大津）
定　　員：下り12名／上り9名
運航料金：5,000円～8,000円　※完全予約制

https://biwakososui.kyoto.travel/

発　　行：琵琶湖疏水沿線魅力創造協議会（京都市上下水道局）
発行年月：令和５（2023）年９月

琵琶湖疏水沿いで出合う扁額

「扁額」とは明治の元勲をはじめとする先人たちの揮毫で、石に文字を彫り込んだ額のこと。第1疏水のトンネルなどに設置されています。揮毫文は、中国の古典などから引用され琵琶湖疏水の完成を称えています。趣向の凝らされたデザインも見どころです。

A 第1トンネル出口 廓其有容（かくとしてそれいるることあり）
意味 疏水をたたえて悠然と広がる大地は、すべてを受け容れる器を有している
揮毫者 山縣有朋（初代内務大臣）

B 第2トンネル入口 仁以山悦智為水歓（じんはやまをもってよろこび、ちはみずのためによろこぶ）
意味 仁者は動かない山によろこび、智者は流れゆく水によろこぶ
揮毫者 井上馨（初代外務大臣）

C 第2トンネル出口 隨山到水源（やまにしたがいて、すいげんにいたる）
意味 山にそって行くと水源にたどりつく
揮毫者 西郷従道（初代海軍大臣）

D 第3トンネル入口 過雨看松色（かうしょうしょくをみる）
意味 時雨が過ぎるといちだんと鮮やかな松の緑をみることができる
揮毫者 松方正義（初代大蔵大臣）

E 第3トンネル出口 美哉山河（うるわしきかなさんが）
意味 なんと美しい山河であることよ
揮毫者 三条実美（初代内大臣）

水路がつなぐ、明治のロマン
歴史をたどる
水路旅

真っ直ぐに伸びるトンネルの、遥か向こうのかすかな光。それは、明治期に成し遂げられた奇跡の光でした。今も京都に「命の水」を運び続ける琵琶湖疏水は、歴史の偉業を語り続けるトンネルを抜け、桜や新緑、紅葉に彩られる山裾を縫って、ゆるやかに進みます。約70年の時を経て復活した観光船「びわ湖疏水船」に乗り、疏水沿いを歩くことで触れられるのは、明治の偉業から生まれた、京都と大津の知られざる魅力です。

① 京都と大津を繋ぐ「希望の水路」

日本の都であった京都は、明治維新の事実上の東京遷都によって、人口が3分の1も減少。まちの再生を図るため、京都と大津をつなぐ琵琶湖疏水の建設を第3代京都府知事北垣国道（きたがきくにみち）と若き技術者 田邊朔郎（たなべさくろう）に託しました。

北垣国道（左）と田邊朔郎（右）［田邊家資料］

② 暮らしとまちを大きく発展させた水力発電

第1疏水の完成で人々の暮らしを最も変えたのが水力発電。蹴上で日本最初の事業用水力発電所が稼働すると、まちに電灯が灯り、中小工場の機械化が進んだほか、日本初の電気鉄道の営業がスタートしました。

日本初の電気鉄道（京都電気鉄道）

③ 琵琶湖から大阪までを繋いだ舟運

第1疏水の完成により、大津から京都を経て大阪までの舟運が開き、物流の拡大が経済と産業の発展につながりました。舟運は今、観光船として第1疏水をたおやかに進み、琵琶湖疏水の魅力を間近に感じさせてくれます。

舟運の様子（蹴上船溜）［田邊家資料］

④ 防火用水と日本屈指の近代庭園群

京都御所の防火のため、御所水道ポンプ室がつくられたほか、岡崎地域には近代最高峰の作庭家小川治兵衛の手により疏水の水を利用した日本屈指の近代庭園群が形成。無鄰菴は明治期を代表する庭園です。

名勝 無鄰菴の庭園［©植彌加藤造園］

⑤ 蹴上浄水場からの安全・安心な水道水の供給

「京都市三大事業」の一環として進められた第2疏水の建設は、明治45（1912）年に完成し、同年には、豊富となった水資源を利用して、蹴上浄水場から日本初の「急速ろ過」方式による水道の供給が始まりました。

現在の蹴上浄水場

⑥ 時を超えて今も活き続ける琵琶湖疏水

京都を再生と飛躍に導いた琵琶湖疏水は我が国の近代化を伝える貴重な産業遺産です。この壮大な事業が、今も京都のまちと暮らしを潤し続け、時を超えて息づいています。

びわ湖疏水船の運航

各ストーリーについて詳しくは、琵琶湖疏水日本遺産特設サイトにて紹介しています。
https://biwakososui.city.kyoto.lg.jp